



《夕日のとり》木版画(部分) 1985年(68歳) 個人蔵

はじめまして、清宮質文です。



じがそう
《自画像》油絵 1942年(25歳)
東京藝術大学蔵

生きていたら100歳。でも26年前、74歳になる前になくなりました。

36歳から木版画^{もくはんが}などを描く^{えが}だけの暮らし。芸大の先生をお^{ことわ}願いされたとき「描く時間がなくなるからいやです」と断ったくらい、絵がすべてでした。

ここでは、わたしが22歳から73歳までに描いた油絵、水彩、木版画、ガラス絵(ガラスに水彩で描きます)、モノタイプ(ガラスに油絵具で描き、1点だけする版画です)がぜんぶで185点見られます。

わたしが17歳のとき、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた一本の線に空も町も人もみんな入っているように感じた気持ちが、絵を描くきっかけ。

《自画像》は今の芸大を卒業するとき自分を描きました。

どんな絵にしたいか気持ちがはっきりしないから、目もはっきり描けない…。

ただ一本の線の中に、空や町や人を感じた気持ち。

そっくりに写すだけじゃその気持ちは描けないって、このときわかりました。

絵に気持ちをこめるには?→絵の詩人になればいいんだ!

気持ちをことばにするのは詩。

ことばのかわりに色やかたちで詩を描けば…絵の中に気持ちが入る!

かたちを自分で考えるのはむずかしいな…人とか町とか空はそのまま描こう。

そのかわり色に気持ちをこめてみよう。

ほんものじゃなくて気持ちの色だから…人とか町とか空は思い出から探そう!

【第1展示室】思い出のかたち+気持ちの色+(?)=絵の詩

でも気持ちの色ってなんだろう…かなしい色とかたのしい色とか？
 すなおに気持ちをこめるには…大好きな水彩絵具の色にしよう！
 そうか！色は気持ちの色だけど、絵具の色でもある。
 色だけじゃない。筆も紙もある…絵具も筆も紙も、もの。
 思い出のかたち+気持ちの色+(もの)=絵の詩？
 じゃあいろんな**もの**で描いてみたら。

オバケ？



《火を運ぶ女》木版画 1957年(40歳)
個人蔵

36歳ではじめた**木版画**も、木の板に彫刻刀で彫って水彩絵具を塗ってバレンという道具で紙にすりませます。すると彫ったり塗ったかたちだけじゃなくて絵具の色じゃない紙の白さとか、板の模様もびっくりするくらいきれいだし描いたときと左右逆さに写しとられた絵は、一枚一枚ちがって見えて…。

水彩絵具でガラスのうらに逆さに描いてひっくり返しておもてから見る**ガラス絵**も…。

絵に気持ちをこめるのが夢だけど、気持ちにいろんなものが重なって、夢がべつのかなにかに化けたみたい。 **絵ってもしかして…オバケ？**

オバケ？



《蝶》ガラス絵 1960年(43歳)
横須賀美術館蔵
1月8日(月・祝)まで展示

絵の詩=オバケ？

でもなかなかつかまらないのがオバケ。
 わたしの気持ちも蝶みたいにひらひらとあっちにいたり、こっちに来たり…。
 気持ちが動くたびに、色も変えなきゃならないし…。
 色を変えてもつかまらないし…**みなさん、どの蝶が好きですか？**



《トバース》木版画 1963年(46歳) 個人蔵



《蝶》すべて木版画 1963年(46歳) 群馬県立館林美術館寄託



1963年(46歳) 個人蔵



1963年(46歳) 東京国立近代美術館蔵
1月8日(月・祝)まで展示

【第2展示室】時のながれをみつめて…

思い出からかたちを探すと、なんだか**なつかしい絵**になってくる…。
むかしの人が描いた絵もなつかしいから、きっと同じ気持ちだったんでしょう。
絵にするとこんな感じ？ →
むかしの人も、今のわたしも
いっしょに時の川にながされて…。
でも空の星は、むかしも今も
同じところで見守ってくれて。



《ながれ》木版画 1966年(49歳)
個人蔵

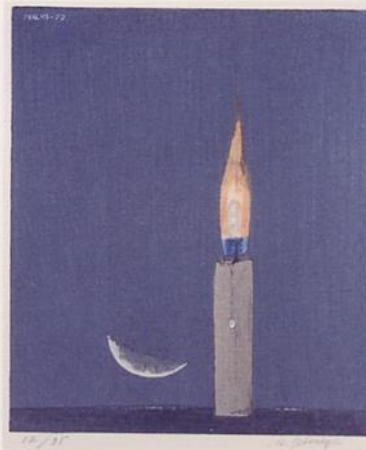


《夏の終り》木版画 1967年(50歳)
群馬県立館林美術館寄託

この絵は軽井沢の夏の思い出。
モデルは知り合いの女の子。
秋を運んでくる風が描きたくて…。
時のながれも、ひと夏の思い出も
どちらもたいせつにしたかったんです。

【第3展示室】時のながれ+思い出=(?)

時のながれも思い出もどちらも
たいせつなら、一枚の絵にしてみよう。
むかしの人も見ていた月と、思い出
のろうそくの火とか…。
だれもが見ていて、なつかしくて、
今日と明日のあいだにあるものは…
夕日だ!



しんや ろうそく
《深夜の蠟燭》木版画 1974年(57歳)
群馬県立館林美術館寄託



《夕日と猫》木版画 1979年(62歳)
個人蔵



とうめい かな
《透明な悲しみ》水彩 1978年(61歳) 横須賀美術館蔵 1月8日(月・祝)まで展示

【ブリッジ】気持ちの色…かなしみの色

ところで色に気持ちをこめると、**かなしみ**ばかりになるのはなぜだろう？

ひとりで描いていると楽しいけれど、さびしい…。

その気持ちがかなしみの色になる。

むかしの人の絵を今のわたしがしているように、わたしの絵もいつかだれかに見てほしい…。**そうすればもう、さびしくない。**

【第4展示室】気持ちをかたちにできるかもしれない！

みなさんに見てほしくて、いろいろなものを使ってたくさん描いてきたけれど、いそがしすぎて体をこわして…。

もっと力をぬいてすなおに描くには？

油絵具でガラスに描いて、紙に写す**モノタイプ**。 →

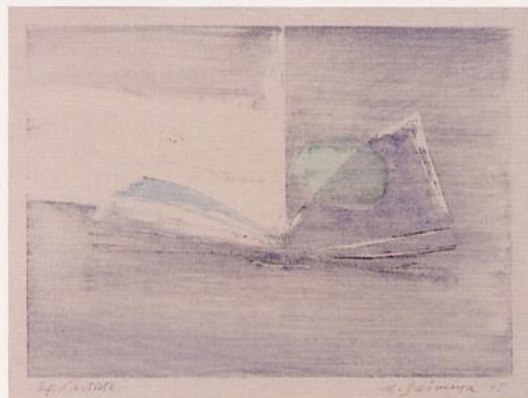
版画だけど、じかに描くようなスピード感！

筆のあとが、そのままわたしの気持ちなんだ…。

今なら気持ちをかたちにできそうな気がする…。



《悲しみ》モノタイプ 1983年(66歳)
照沼毅陽氏蔵



この気持ちを木版画にしてみると…。

18年前の《夏の終り》で描きたかった

秋を運んでくる風がやっと描けた！

気持ちそのままのかたちだけど

風がさらさら本のページをめくって

きらきら光かがやいて。そう感じませんか？

しよしゅう
《初秋の風》木版画 1985年(68歳) 神奈川県立近代美術館蔵

【第5展示室】夕日のむこうには…

人生のさいごに描いていたのはガラス絵。

夕日のむこうは明日だけど、もし今日が

人生さいごの日なら、明日は…。

色もかたちもなみだでにじむけれど

このまま**夕日のむこうへ**旅立とう…。

そうだ、大好きな蝶のはねにのって…。



《夕べの空へ》ガラス絵 1991年(73歳)
照沼毅陽氏蔵